

# 洋服で“やけど”をする？

ドライクリーニング溶剤での皮膚トラブルにご注意ください！

合成皮革のパンツ（ズボン）をドライクリーニングに出し、でき上がってきたものをポリ袋に入れたままにしておき、数日後に着用して外出したところ、その夜、すね部分が熱をもち、赤く腫れ上がった、との事例がありました。

これは、ドライクリーニングで使用した溶剤（石油系）が衣類に残っていて、皮膚に付着した際に、皮膚の細胞を侵すことにより「化学やけど」を引き起こしてしまったのが原因です。

## 注 意！

- ドライクリーニングから戻ってきた衣類は、すぐに袋から出して陰干しをしてください。
- 石油臭がする場合は、クリーニング店に申し出て再処理を依頼するか、臭いなくなるまで、風通しのよい屋外で陰干しをしてください。  
※ 屋内に干すと室内の空気が汚れ、気分が悪くなることもあるので、屋外で陰干しをするようにしましょう！
- 特に、合成皮革やスキーウェア、肩パッドなどの厚地の素材は乾きにくいので、十分に乾燥されずにクリーニング店から返却されることがあります。陰干しでしっかり乾燥させてから着用しましょう。
- 着用後、肌がヒリヒリするなどの違和感がある場合は、すぐに着衣を脱ぎ、ぬるま湯などで肌をよく洗い流しましょう。症状がひどくなりそうな場合や判断に迷う場合は医療機関を受診しましょう。

〈参考〉

独立行政法人 国民生活センター「クリーニングした衣類で化学やけど！—残留したドライクリーニング溶剤で—」  
(1999年3月公表) [http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-19990305\\_1.pdf](http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-19990305_1.pdf)

## ヒープのワンポイントアドバイス

衣類を、「シミや変色、化学やけど」などのトラブルから防止するためにも、異臭の有無にかかわらず、すぐにポリ袋から出して陰干しをすることをおすすめします！

また、クリーニング店の袋は配送用ですので、陰干しをした後にカバーを掛ける場合は、衣類の保管用カバーを掛けておきましょう。



## 一般社団法人 日本ヒープ協議会



当協議会は、企業等の消費者関連部門などに働く女性が、生活者と企業のパイプ役としてよりよい仕事をするため、その能力向上を目的に1978年に設立されました。現在、食品・化学・電機・流通・金融・マスコミなど、企業の消費者対応・消費者教育・広報・商品開発・営業・品質管理・CSR部門などの多様な業務に携わる女性たちが集い、異業種交流の特徴を活かしながら、情報や意見の交換を行っています。

東京の他、関西・九州に支部を持ち、2014年4月現在、賛助企業21社、会員が所属する企業74社、正会員91名が月例会や分科会を通じて、生活者と企業の信頼ある関係構築へ向けて活動しています。

日本ヒープ協議会 HP <http://www.heip.gr.jp/>